

#### (4) ②様式第4号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI / 12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等 コラボ研修プログラム 支援事業報告書	実施機関名：愛媛大学教職大学院（アルムナイ） 連携機関名：愛媛県内市町教育委員会、愛媛県総合教育センター、松山市教育研修センター
	事業名：地域協働型リーダー養成研修プログラム開発事業
	研修等名：【NITS・愛媛大学教職大学院コラボ研修】 アルムナインネットワーク人材開発研修 — 令和の日本型学校教育を担う教員の新たな研修システム構築 —
	開催日時：令和4年8月27日（第1回：講座A） 12月18日（第2回：講座B） 13時～17時 開催場所：愛媛大学（愛媛県松山市文京町3番） 参加人数（総数）と属性：（80人） 学校管理職25人、教諭29人、行政職19人、大学教員7人

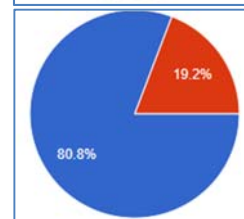
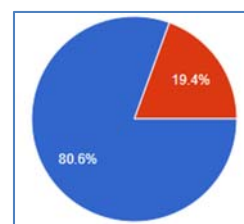
#### 内容：

- 1 教育委員会との連携：全市町教育委員会への啓発依頼、連携教育委員会、校長会等への趣旨説明
- 2 事前研修：講座A（10:00—11:30） 講座B（オンライン 17:30-18:00）
  - ・講師、主催者、修了生運営スタッフが、テーマの確認、研修内容、ディスカッションの視点について確認する。
  - ・ディスカッションの内容の活かし方、全体協議の深め方、地域間交流の活性化などについて、共通理解を図る。
- 3 研修会：13:00～17:00
  - 【講座A】①研修の流れ説明・講師紹介等（10分）
    - ②講師講話：齋藤嘉則 教授（90分）「新たな研修システムと職能開発」
    - ③グループディスカッション（35分）「校内研修の現状と課題、今後の研修システムの展望」
    - ④対談・全体協議（50分） 露口教授、齋藤教授、県教育センター企画開発室長
    - ⑤修了生まとめ ※研修後の即時アンケート入力、明日からの教育実践目標の明確化等、
  - 【講座B】①研修の流れ説明・講師紹介等（10分）
    - ②講師講話：平澤紀子 教授（90分）「インクルーシブ教育時代の学校経営  
— リーダー養成と研修組織のデザイン — 」
    - ③グループディスカッション（30分）「管理職等の特別支援教育研修システムの現状と課題」
    - ④グループディスカッション（40分）「今後の研修システムと職能開発」
    - ⑤全体協議（30分） 露口教授、平澤教授、四国中央市町教育委員会学校教育課長
    - ⑥修了生まとめ ※研修後の即時アンケート入力、明日からの教育実践目標の明確化等
- 4 事後研修：講座A 17:00～18:00
  - ・研修効果を確認し、アルムナインネットワークを活用した県内研修システム構築についての意見交換を行う。

#### 成果：

- ・県内各地域から大学院修了生が参加し、地域間交流、職務間交流を通して、学校現場における課題を明確にするとともに、今後の具体的取組内容共有した。
- ・参加者は、「教員の新たな研修システム構築」について理解を深め、学校現場における管理職に求められる経営判断や組織開発の具現化に向けて、新たな知見を得るとともに、議論を通して実践課題を明確にした。
- ・管理職に求められる能力として、特別支援教育の重要性と研修の必要性を再確認した。
- ・県内各地域の管理職等、県、市町教育委員会行政職（指導主事）、大学関係者がディスカッションする場の設定により、の連携の在り方を 【職能成長度】 展望することができた。
- ・活用度、職能成長度共に、最高評価（4件法の4段階）が80%以上であった。

#### 【活用度】



#### アイデアや工夫したこと：

- ・県内教員の地域間交流、職務間交流、世代間交流等、教職大学院修了生をファシリテーターとした学びのコミュニティを創出し、課題解決に向けた相互交流のグループディスカッションを活性化した。
- ・教職大学院現職修了生のネットワーク強化を目指しつつ、人材開発に向けて、県内教員を巻き込んだ。
- ・県、市の行政機関との連携による研修会を目指し、参加募集や以後の協力体制について共通理解した。

## <写真・図など>

### 1 教育委員会との連携

・参加啓発の連携及び研修会登壇者としての参加が実現し、それぞれの立場から、テーマに沿って意見交換することで、今後の研修システムの在り方について展望することができ、大学連携体制の強化にもつながった。

・教育行政への積極的なアプローチにより、連携強化を図るとともに、教職大学院の地域貢献を促進した。

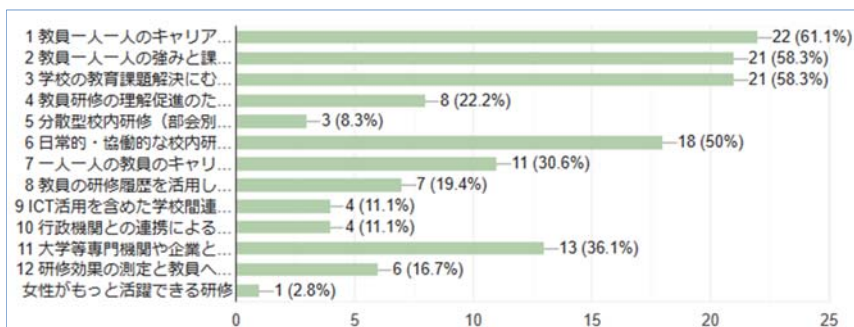
### 2 事前・事後研修

・企画運営者からのテーマ設定の趣旨説明に基づき、講話内容の焦点化を行い、研修会のゴールを明確にした。中教審答申及び今後の研修システムの方向性を受け、学校管理職に求められる資質能力の向上に資する協働型研修の実現を目指すことを確認し、事後研修では、グルーディスカッションでの意見交換に関する成果について協議した。その中で、修了生のネットワークの強化及び今後の教職大学院に求められる役割を確認した。

### 3 研修の実際（主な協議内容及び参加者の今後の取組内容）

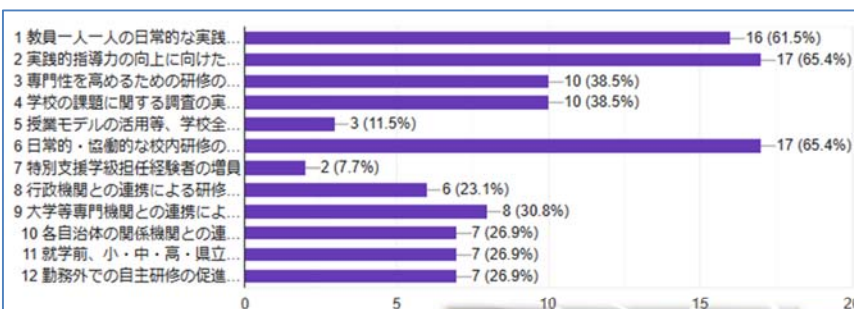
#### 【講座 A】

- ・コロナ禍による影響 ・研修内容の偏り
- ・若手育成の校内研修
- ・教員の研修意欲の格差
- ・ゴールを見据えた校内研修
- ・研修における管理職の役割
- ・大学院と関係機関の研修の組合せ
- ・学校規模による研修システムの違い
- ・研修の時間確保 ・研修と子どもの成長
- ・研修ニーズの把握 ・理論の習得と実践
- ・校長にもとめられる対話力



#### 【講座 B】

- ・通常学級における指導の在り方
- ・授業のUD化 ・若手育成
- ・校内研修での情報共有と当事者意識
- ・外部機関との連携と支援体制整備
- ・特別支援学級授業観察や事例研修
- ・先を見据えた研修の運営
- ・個別の支援計画の活用（形骸化）
- ・管理職とリーダー養成
- ・人材不足と指導力不足



#### （参加者の所感）

- ・現状の教育的課題に即した研修だったと思う。もっとたくさんの先生方に参加していただけるとよいと思う。
- ・管理職という立場から特別支援の視点をどう学校経営に取り入れていくかを考えるきっかけとなった。
- ・どちらも会場で参加しました。グループ協議で顔を合わせて話し合うことで、より協議が深まり連帯感も高まったと感じた。
- ・設定していただいたテーマについて、広く深く学ぶ機会となった。
- 国や県の取組や研究されている専門的な立場から講師の先生の話の聞くことができた。自校で還元していきたい。
- ・喫緊の課題である新しい研修システムについて、大変有意義な学びになった。対話を通じた教職員の職能開発と教職大学院と連携した研修の高度化が一層重要になることが理解できた。次回も縁を温めにまいります。
- ・修了生ではありませんが、タイトルに惹かれ、無料でオンライン可能でしたので参加した。校長の役割がよく理解できた。2学期の視点をしっかりともち、先生方を伸ばしていけるよう、実践にうつします。
- ・新たな教師の学びの姿の実現に向けて、沢山の示唆を与えてくださり、ありがとうございました。協働的な職場作りを行うとともに、教職員一人一人の状況を把握したいと思います。

